

細胞の友

中山教授教授就任十周年記念号



THE

th

ANNIVERSARY

平成18年12月

九州大学 生体防御医学研究所 分子発現制御学分野

<http://www.bioreg.kyushu-u.ac.jp/saibou/index.html>



細胞の友

九州大学
生体防御医学研究所
分子発現制御学分野
創立10周年記念



もくじ

研究室員の変遷	3~	
アルバム	14~	
寄稿文	17~	
北川雅敏	...17	西山正章	...30
豊野孝	...18	押川清孝	...31
籾賀徹	...18	高木正徳	...31
南嶋洋司	...19	洲崎悦生	...32
今木裕幸	...21	山田エカリ	...33
恒松良助	...22	中川直	...34
原太一	...23	田中佳苗/小坂康士	...35
神武洋二郎	...24	佐伯友子	...36
奥村文彦	...25	松本有樹修	...36
白根道子	...26	小田瑞穂	...37
東田裕一	...28	小山田浩二	...37
松本雅記	...29	小野山一郎	...38
松崎芙美子	...29		
主な業績集	39~	
「中山研創立10周年に寄せて」 中山敬一教授より	43~	



平成8年度(1996年)

＜細胞学部門＞	教授	中山敬一
	助手	畠山鎮次
	事務官	木村美保子
＜発生工学実験施設＞	研究補助員	長沢郁子
		岩田光子

＜ノーベル賞＞

生理学・医学賞 - ピーター・ドハーティー、
ロルフ・ツィンカーナーゲル

＜主な出来事＞

- ・村山首相、退陣を表明、橋本龍太郎内閣発足
- ・NASAのスペースシャトル「エンデバー」に若田光一・宇宙飛行士が乗船
- ・映画「男はつらいよ」シリーズの車寅次郎役で知られる俳優の渥美清が死去。
- ・巨人、中日に勝ち7月9日につけられた広島との11.5ゲーム差をひっくり返しセ・リーグ優勝決める（いわゆるメークドラマ。）
- ・ジョンベネ殺害事件。

＜ヒット曲＞

- 1位 Mr.Children : 『名もなき詩』
- 2位 globe : 『DEPARTURES』
- 3位 久保田利伸 with NAOMI CAMPBEL : 『LA・LA・LA LOVE SONG』
- 4位 スピッツ : 『チェリー』
- 5位 Mr.Children : 『花-M?mento-Mori-』
- 6位 スピッツ : 『空も飛べるはず』
- 7位 サザンオールスターズ : 『愛の言霊 ~Spiritual Message』
- 8位 華原朋美 : 『I'm proud』
- 9位 安室奈美恵 : 『Don't wanna cry』
- 10位 安室奈美恵 : 『Chase the Chance』



平成9年度(1997年)

<細胞学部門>

教授	中山敬一	研究支援推進員	西村直子
助教授	北川雅敏	共同研究員	北川恭子
助手	畠山鎮次		富永薫
大学院生	山中篤志	研究補助員	松下純恵
	築山忠維	科技団・技術員	白根道子
	三浦正徳	” ・研究補助員	下原田加代子
特別研究学生	永濱裕康		安河内亮子
研究生	石田典子	事務官	木村美保子
非常勤研究員	豊野孝		

<発生工学実験施設>

助教授	中山啓子
文部技官	山田ユカリ
研究補助員	長沢郁子 岩田光子

<主な出来事>

- ・松田聖子と神田正輝が離婚
- ・鄧小平死去
- ・阪神のマイク・グリーンウェル選手が「ユニフォームを脱ぐときだという神のお告げがあった」という迷言を残し、引退を表明。これに対して吉田義男監督は「嵐のように来日して嵐のように去っていった」とコメント。
- ・映画「もののけ姫」（宮崎駿監督）が劇場公開
- ・ダイアナ元英皇太子妃、パリで事故死

<ノーベル賞>

物理学賞 - スティーブン・チュー、クロード・コーエン

＝タヌジ、ウィリアム・フィリップス

化学賞 - ポール・ボイヤール、ジョン・ウォーカー

イエンス・スコウ

生理学・医学賞 - スタンリー・B・プルシナー

<ヒット曲>

1位 安室奈美恵：『CAN YOU CELEBRATE?』

2位 KinKi Kids：『硝子の少年』

3位 Le Couple：『ひだまりの詩』

4位 globe：『FACE』

5位 SPEED：『STEADY』

6位 今井美樹：『PRIDE』

7位 TK PRESENTS こねっと：『YOU ARE THE ONE』

8位 Mr.Children：『Everything (It's you)』

9位 GLAY：『HOWEVER』

10位 SPEED：『White Love』



平成10年度(1998年)

<細胞学部門>

教授	中山敬一	研究支援推進員	西村直子
助教授	北川雅敏	科技団・技術員	白根道子
助手	畠山鎮次		松本雅紀
大学院生	山中篤志		松下純恵
	築山忠維		下原田加代子
	三浦正徳		安河内亮子
	池辺千穂		竹内智子
	石田典子		瀧本亜紀
	宮本顕友		木村美保子
	南嶋洋司		
	丸山俊一郎		
特別研究学生	永濱裕康		
研究生	服部公彦		
	中道郁夫		

<発生工学実験施設>

助教授	中山啓子
助手	小南欽一郎
文部技官	山田ユカリ
研究補助員	長沢郁子
	岩田光子

<ノーベル賞>

物理学賞 - Robert B. Laughlin, Horst L. Stormer,
Daniel C. Tsui

生理学・医学賞 - ロバート・ファーチゴット、ルイ・
イグナロ、フェリド・ムラド

<ヒット曲>

- 1位 GLAY : 『誘惑』
- 2位 SMAP : 『夜空ノムコウ』
- 3位 SPEED : 『my graduation』
- 4位 BLACK BISCUITS : 『タイミング ~Timing~』
- 5位 GLAY : 『SOUL LOVE』
- 6位 Kiroro : 『長い間』
- 7位 L'Arc~en~Ciel : 『HONEY』
- 8位 KinKi Kids : 『愛されるより 愛したい』
- 9位 Every Little Thing : 『Time goes by』
- 10位 KinKi Kids : 『全部だきしめて／青の時代』

<主な出来事>

- ・長野オリンピック開幕
- ・明石海峡大橋開通
- ・小渕内閣発足
- ・北朝鮮、テポドン発射、三陸沖に着弾
- ・三冠馬であった競走馬のナリタブライアンが安楽死
- ・プロ野球の横浜ベイスターズが38年ぶりにリーグ優勝



平成11年度(1999年)

<細胞学部門>

教授	中山敬一	研究生	服部公彦
助教授	北川雅敏	科技団派遣職員	白根道子
助手	畠山鎮次		下原田加代子
非常勤研究員	松本雅紀		安河内亮子
大学院生	山中篤志		松下純恵
	築山忠維		西村直子
	三浦正徳		木村美保子
	池辺千穂		
	石田典子		
	宮本顕友		
	南嶋洋司		
	丸山俊一郎		
	矢田雅佳		
	今木裕幸		
	中道郁夫		
	恒松良祐		

<発生工学実験施設>

助教授	中山啓子
助手	小南欽一郎
文部技官	山田ユカリ
非常勤研究員	神崎秀嗣
研究補助員	長沢郁子
	岩田光子
研究支援推進員	大浦睦美

<ノーベル賞>

物理学賞 - ゲラルド・トフーフト、マルティヌス・フェルトマン
化学賞 - アハメッド・ズウェイル
生理学・医学賞 - ギュンター・ブローベル

<ヒット曲>

- 1位 だんご合唱団：『だんご3兄弟』
- 2位 GLAY：『Winter, again』
- 3位 浜崎あゆみ：『A』
- 4位 坂本龍一：『ウラBTTB』
- 5位 宇多田ヒカル：『Automatic/time will tell (12cm)』
- 6位 宇多田ヒカル：『Addicted To You』
- 7位 モーニング娘。：『LOVEマシーン』
- 8位 GLAY：『BE WITH YOU』
- 9位 L'Arc~en~Ciel：『HEAVEN'S DRIVE』
- 10位 KinKi Kids：『フラワー』

<主な出来事>

- ・日産自動車、フランスのルノーと資本提携を結ぶ
- ・西武ライオンズの大物ルーキー・松坂大輔投手が日本ハム戦でプロ初登板を果たし、8回2失点の好投でプロ初勝利
- ・石原慎太郎、東京都知事に当選
- ・郷ひろみが渋谷でゲリラライブ
- ・ダイエー、南海時代の1973年以来となる26年ぶりパ・リーグ優勝
- ・聖飢魔II、解散。23時59分、悪魔たちは霧に包まれ信者の前から姿を消す



平成12年度(2000年)

<細胞学部門>

教授 中山敬一
助教授 畠山鎮次
助手 嘉村巧
学術振興会特別研究員 白根道子
服部公彦
非常勤研究員 松本雅紀
大学院生 山中篤志
築山忠維
三浦正徳
池辺千穂
石田典子
宮本顕友

大学院生

南嶋洋司
丸山俊一郎
矢田雅佳
今木裕幸
中道郁夫
恒松良祐
原太一
金子千恵
アバス・フォトバティ
下原田加代子
安河内亮子
松下純恵
西村直子
木村美保子

訪問研究員

科技団派遣職員

<発生工学実験施設>

助教授 中山啓子
助手 小南欽一郎
文部技官 山田ユカリ
非常勤研究員 押川清孝
研究補助員 長沢郁子
岩田光子
研究支援推進員 大浦睦美

<主な出来事>

- ・グリコ・森永事件時効
- ・小渕恵三総理大臣死去
- ・ヒトゲノム、ドラフト配列の終了を宣言

<ノーベル賞>

物理学賞 - ゾロス・アルフェロフ、ハーバート・クレマー、
ジャック・キルビー
化学賞 - アラン・ヒーガー、アラン・マクダイアミド、白川英樹
生理学・医学賞 - アービド・カールソン、ポール・グリーンガード、
エリック・カンデル

<ヒット曲>

- 1位 サザンオールスターズ：『TSUNAMI』
- 2位 福山雅治：『桜坂』
- 3位 宇多田ヒカル：『Wait & See ～リスク～』
- 4位 倉木麻衣：『Love, Day After Tomorrow』
- 5位 浜崎あゆみ：『SEASONS』
- 6位 SMAP：『らいおんハート』
- 7位 モーニング娘。：『恋のダンスサイト』
- 8位 B'z：『今夜月の見える丘に』
- 9位 プッチモニ『ちょこっとLOVE』
- 10位 L'Arc~en~Ciel：『NEO UNIVERSE／finale』



平成13年度(2001年)

<細胞学部門>

教授	中山敬一	科技団派遣職員	下原田加代子
助教授	畠山鎮次		安河内亮子
助手	嘉村巧		松下純恵
学術振興会特別研究員	白根道子		西村直子
	服部公彦		木村美保子
	松本雅紀		杉田知栄子

” 海外特別研究員	アバス・フォトバティ	<発生工学実験施設>	
科技団派遣職員・研究員	山中篤志	助教授	中山啓子
大学院生	石田典子	助手	小南欽一郎
	宮本顕友	文部技官	山田ユカリ
	南嶋洋司	非常勤研究員	押川清孝
	池辺千穂	研究補助員	長沢郁子
	丸山俊一郎		岩田光子
	矢田雅佳	研究支援推進員	大浦睦美

<ヒット曲>

- 1位 宇多田ヒカル：『Can You Keep A Secret?』
- 2位 浜崎あゆみ：『M』
- 3位 CHEMISTRY：『PIECES OF A DREAM』
- 4位 桑田佳祐：『波乗りジョニー』
- 5位 モーニング娘。：『恋愛レポリューション21』
- 6位 桑田佳祐：『白い恋人達』
- 7位 浜崎あゆみ：『evolution』
- 8位 KinKi Kids：『ボクの背中には羽根がある』
- 9位 三木道三：『Lifetime Respect』
- 10位 ポルノグラフィティ：『アゲハ蝶』

M. D. Ph. D. コース生

鍵本忠尚

<ノーベル賞>

物理学賞 - エリック・コーネル、ヴォルフガング・ケターレ、カール・ワイマン

化学賞 - ウィリアム・ノールズ、野依良治、バリー・シャープレス

生理学・医学賞 - リーランド・ハートウェル、ティモシー・ハント、ポール・ナース

<主な出来事>

- ・ ジョージ・W・ブッシュがビル・クリントンの後を継いでアメリカ合衆国大統領に就任
- ・ 小泉内閣発足
- ・ 日本国内初の狂牛病 (BSE) 感染牛が発見される
- ・ アメリカ同時多発テロ事件

平成14年度(2002年)

<http://www.bioreg.kyushu-u.ac.jp/saibou/index.htm>

<細胞学部門>

教授
助教授
助手
学術振興会特別研究員

中山敬一
畠山鎮次
嘉村巧
白根道子
松本雅紀
押川清孝
アバス・フォトバティ

科技団派遣職員

下原田加代子
安河内亮子
松下純恵
西村直子
木村美保子
杉田知栄子

科技団派遣職員・研究員
科技団派遣職員・技術員
大学院生

矢田雅佳
今木裕幸
中道郁夫
恒松良祐
原太一
金子千恵
高橋秀尚

石田典子
小山田浩二
西山正章
神武洋二郎
奥村文彦
栄信孝
洲崎悦生
小野山一郎
事柴周平
藤井洋

<発生工学実験施設>

助教授 中山啓子
助手 谷内一郎
文部技官 山田ユカリ
非常勤研究員 押川清孝
研究補助員 長沢郁子
岩田光子
研究支援推進員 大浦睦美

<ノーベル賞>

物理学賞 - 小柴昌俊、レイモンド・デイビス、リカルド・ジャコーニ
化学賞 - 田中耕一、ジョン・フェン、クルト・ヴェートリッヒ
生理学・医学賞 - シドニー・ブレナー、ロバート・ホロビッツ、ジョン・サルストン

<主な出来事>

- ・2002 FIFAワールドカップ開幕。
- ・北朝鮮に拉致された日本人5人が帰国

<ヒット曲>

- 1位 浜崎あゆみ：『H』
- 2位 宇多田ヒカル：『traveling』
- 3位 元ちとせ：『ワダツミの木』
- 4位 Dragon Ash：『Life goes on』
- 5位 GLAY：『Way of Difference』
- 6位 宇多田ヒカル：『SAKURAドロップス/Letters』
- 7位 平井堅：『大きな古時計』
- 8位 ストロベリー・フラワー：『愛のうた ~ピクミンのテーマ』
- 9位 浜崎あゆみ：『Voyage』
- 10位 宇多田ヒカル：『光』





平成16年度(2004年)



<分子発現制御学分野>

教授	中山敬一	科技団派遣職員	矢田亮子
助教授	畠山鎮次		篠原都子
助手	白根道子		光安理恵
助手(特任)	松本雅紀		倉光美恵
	恒松良祐		木村美保子
科技団派遣職員・技術員	小山田浩二		西村直子
大学院生(博士) 高橋秀尚	小野山一郎		セイドマハムード容子
	西山正章		吉田英子
	神武洋二郎		瀬戸容子
	奥村文彦		太田茜
	栄信孝		
	洲崎悦生		
研究生	佐藤学道		
派遣共同研究員	高木正徳		

<技術室>

技官	山田ユカリ
研究支援推進員	大浦睦美
技能補助員	長沢郁子
	岩田光子
	小田瑞穂

<ヒット曲>

- 1位 平井堅：『瞳をとじて』
- 2位 Mr.Children：『Sign』
- 3位 平原綾香：『Jupiter』
- 4位 ORANGE RANGE：『花』
- 5位 Mr.Children：『掌／くるみ』
- 6位 柴咲コウ：『かたち あるもの』
- 7位 ORANGE RANGE：『ロコローション』
- 8位 サザンオールスターズ：
『君こそスターだ／夢に消えたジュリア』
- 9位 河口恭吾：『桜』
- 10位 Gorie with Jasmine & Joann：『Mickey』

<ノーベル賞>

- 物理学賞 - デビッド・グロス、デビッド・ポリアツァー、フランク・ウィルチェック
- 化学賞 - アーロン・チカノーバー、アブラム・ハーシュコ、アーウィン・ローズ
- 生理学・医学賞 - リチャード・アクセル、リンダ・バック

<主な出来事>

- ・山口県の養鶏場で日本国内では79年ぶりとなる鳥インフルエンザが発生
- ・自衛隊イラク派遣開始
- ・長嶋茂雄巨人軍終身名誉監督が脳梗塞で入院
- ・医師の卒後研修が義務化
- ・プロ野球で50年ぶりに東北楽天ゴールデンイーグルスの新規参入が決まる





平成17年度(2005年)



<分子発現制御学分野>

教授	中山敬一	科技団派遣職員	木村美保子
助手	白根道子		西村直子
助手(特任)	松本雅紀		吉村祐子
	恒松良祐		東芳
科技団派遣職員・研究員	高橋秀尚		太田茜
	西山正章		
科技団派遣職員・技術員	小山田浩二	<技術室>	
大学院生(博士)	洲崎悦生	技官	山田ユカリ
	小野山一郎	研究支援推進員	大浦睦美
	事柴周平	技能補助員	長沢郁子
	藤井洋		岩田光子
	雑賀徹		小田瑞穂
	中川直		
	逸見百江		
	北川哲平		
大学院生(修士)	松本有樹修		
	佐伯友子		
研究生	佐藤学道		
派遣共同研究員	高木正徳		

<ノーベル賞>

物理学賞 - ロイ・グラウバー、ジョン・ホール、テオドール・ヘンシュ
 化学賞 - イヴ・ショーヴァン、ロバート・グラブス、リチャード・シュロック
 生理学・医学賞 - バリー・マーシャル、ロビン・ウォレン

<主な出来事>

- ・ ジョージ・W・ブッシュが2期目のアメリカ合衆国大統領に就任
- ・ 福岡県西方沖地震 (M7.0) 発生
- ・ ローマ教皇ヨハネ・パウロ2世が死去
- ・ JR福知山線脱線事故が起こる

<ヒット曲>

- 1位 修二と彰 : 『青春アミーゴ』
- 2位 ケツメイシ : 『さくら』
- 3位 Mr.Children : 『四次元 Four Dimensions』
- 4位 ORANGE RANGE : 『* ~アスタリスク~』
- 5位 GLAY×EXILE : 『SCREAM』
- 6位 KinKi Kids : 『Anniversary』
- 7位 B'z : 『OCEAN』
- 8位 ORANGE RANGE : 『ラヴ・パレード』
- 9位 トラジ・ハイジ : 『ファンタスティポ』
- 10位 NANA starring MIKA NAKASHIMA : 『GLAMOROUS SKY』



平成18年度(2006年)

<http://www.bioreg.kyushu-u.ac.jp/saibou/index.html>

<分子発現制御学分野>

教授	中山敬一	科技団派遣職員	木村美保子
助手	白根道子		西村直子
助手 (COE特任)	東田祐一		吉村祐子
	松本雅紀		松崎芙美子
	西山正章		佐藤みどり
	小野山一郎		太田茜
助手(特任)	小野山一郎		
科技団派遣職員・研究員	洲崎悦生	<技術室>	
科技団派遣職員・技術員	小山田浩二	技官	山田ユカリ
派遣共同研究員	高木正徳	研究支援推進員	大浦睦美
” (コモジエン)	押川清孝	技能補助員	長沢郁子
大学院生(博士)	雑賀徹		岩田光子
	中川直		小田瑞穂
	田中佳苗	<ヒット曲>	
大学院生(修士)	松本有樹修	1位 KAT-TUN - 「Real Face」	
	佐伯友子	2位 レミオロメン - 「粉雪」	
	小坂康士	3位 修二と彰 - 「青春アミーゴ」	
	杉本直樹	4位 EXILE - 「ただ…逢いたくて」	
		5位 BUMP OF CHICKEN - 「supernova／カルマ」	
		6位 湘南乃風 - 「純恋歌」	
		7位 SMAP - 「Dear WOMAN」	
		8位 SMAP - 「Triangle」	
		9位 KinKi Kids - 「SNOW! SNOW! SNOW!」	
		10位 ケツメイシ - 「旅人」	

<ノーベル賞>

物理学賞 - ジョン・C・マザー、ジョージ・スムート

化学賞 - ロジャー・コーンバーグ

生理学・医学賞 - アンドリュー・ファイアー、クレイグ・メロー

<主な出来事>

- ・証券取引等監視委員会が、堀江貴文ライブドア前社長ら4名、およびライブドア、ライブドアマーケティング両社を、証券取引法違反容疑で東京地検特捜部に告発
- ・第1回ワールド・ベースボール・クラシック (WBC) 決勝戦で日本代表がキューバ代表を10-6で破り、初代王者に輝いた
- ・村上ファンド代表・村上世彰が証券取引法違反 (インサイダー取引) 容疑で逮捕される
- ・FIFAワールドカップ?ドイツ大会開幕
- ・YS-11が日本国内の定期路線から引退

PHOTOGRAPH ALBUM

中山研 10年の軌跡

中山研設立から10年。輝かしい中山研の歴史を写真で振り返ってみましょう。
濃ゆ〜いメンバーが繰り広げる、悲喜交々のできごと。
なんだか涙が止まらない・・・いろいろな意味で。



1997年4月 最初のメンバー
7人のスタッフで出発



1998年4月 1年でこんなにたくさん
増えました



1998年11月 教室旅行
九大山の家にて



2002年4月 教授?!
今とはずいぶん・・・



2005年4月 この年から修士の学生が
入室しました



2006年4月 現在のメンバー
日々邁進中

1998年11月

教室旅行

九大山の家へ1泊2日の教室旅行へ行きました
すきま風が吹いてて寒かったそうなの...



永濱先生のカメラ目線 池辺さんうれしそう



永沢さんと啓子先生



中道氏 若い!!



白根先生・長沢さん・啓子先生・下原田さん・山田さん



1999年11月

唐津くんち

三浦先生のお招きでラポ総出で唐津くんちへ繰り出しました
唐津の海の幸に皆さん舌鼓をうったそうなの...



北川夫妻
おいしそう...



安河内さん・下原田さん・松下さん
白根先生の貴重なひざ上スカート写真



小南夫妻



築山さん・矢田さん

2004年3月

祝!!矢田夫妻結婚式

博多リバレイン・レストラン平松

矢田雅佳・亮子夫妻の結婚式に
中山研のラボメンバーが招待されました
幸せいっぱいの中内カッフルを
全員でお祝いしました

新郎新婦
末永くお幸せに☆

新郎の両親?
ではなく、中山先生と
永沢さんと岩田さん



スタッフの皆さん



白根先生と松本さん
(3割り増し)



みんなで記念撮影
女性陣の着物が華やか

2006年9月 NCI

Cell cycle研究の4ラボ合同Meetingが
事柴氏の留学先・NCIで行われました



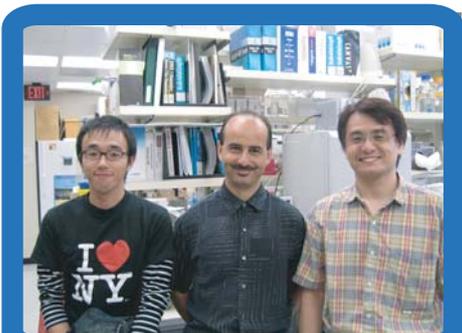
全員で記念撮影、右端がPagano氏
右から3番目がYue氏



中山先生の賞禄たっぴいな
プレゼンテーション



プレゼン後、スッキリ顔の雑賀氏と極度の
緊張から開放されてへろへろの中川氏



中山教授と事柴氏と事柴氏の現在の
ボス、Kaldis氏



ホワイトハウスの前で記念撮影
アメリカにいるとは思えないほど
ナチュラル (特にビーチサンダル)



ワシントン・モニュメントをバックに
記念撮影、この後、登ってみました



北川 雅敏

それは実験医学の広告から始まった

浜松医科大学・医学部・生化学第一講座 北川雅敏

中山先生との思い出…。それは実験医学の助教授募集から始まった。

小生は当時B製薬（注：B級という意味ではない）研究所に在籍しており、CDKやRBの研究を続けていた。“助教授募集、細胞周期研究”おっ！“35歳以下”んんっ？若くないか？おれは36だっ！なんかの間違いだ！聞いてみよっ！プルルルル

「助教授募集の広告見たんですが…35以下ってほんとですか？当方36なんですけど…」

『あはは…僕が35なんでね…。でもそちらが気にならなければ、いっこうにかまいませんよ』

「そうですか、じゃあ多分応募させていただきます。」

そうか…しかし若い教授だなー（お互い面識なし）

それからすこしたったある深夜、『中山ですけど、今月号のあなたのEMBO Jの論文読みました。』

いい仕事ですね！応募書類どうなってますか？』

「あ、しめきりまでだいぶあるんで、まだ…」

『とにかくなるべく早く、セミナーしに来てください！』

「はあ…」

もしかして、すこしせっかち…。？とにかく急いで準備っ！生医研でセミナーした後、河太郎のうごめく烏賊の生造りの前で、

『ぜひうちにきてください！』

「はいっ！よろしくお願いします」

突然のプロポーズに”ぼっ”として気がつくそう答えていた。やはりノックアウトのプロは違うとつくづくそう思った。啓子先生のとときもそうだったんですか？

中山研で培ったこと、Logics、Ubiquitin-Proteasome System、理想のJC……

それと「ボスになろう！」という気持ち。

中山先生との出会い、そして中山研がなければ今の僕はありえないでしょう。

いつも深く感謝しています。そして十周年本当におめでとうございます。



生医研細胞学部門での思ひ出

この度は生体防御医学研究所分子発現制御学部門創立 10 周年おめでとうございます。

つい先日も白根先生の論文が各新聞紙に掲載されているのを目にしまして、分子発現制御学部門が大いに発展し、成果を上げ続けていることを非常に嬉しく思うと同時に、自分も頑張らな

ければと励まされているような気持ちがいいたします。細胞学部門を 1998 年に卒業(?) してから、はや 8 年経ちますが、細胞学部門での生活は昨日のことに思い出されます。細胞学部門に来た当初(1997 年 4 月)は全然人がいなくて静かなラボでした。夜、実験室で実験を行っているとき、教授室のドアが開く音がして、ぱたぱたと足音して中山先生がやって来られて、「今日はどうだった?」と良く聞かれていたことを思い出します。「ライブラリーからスクリーニングを行って、クローンがとれました」などと返事をする、「じゃあ頑張ってね」とそのまま戻られることもあったんですが、そのままいろいろとお話しをされることもありました。研究費が入ったら(当時は大型の研究費がまだなかった)X 線照射装置を購入したいとか、研究費の審査面接での話とかいろいろな話をさせていただきました。細胞学部門において優秀な先生方から御教授を受ける事が出来た研究生活は、私にとって非常にかけがえのないものでしたが、今思うと、直接このように中山先生の研究に対しての熱意のあるいろいろなお話しを直接 1 対 1 で伺えたのは、研究者とはどうあるべきかを学ぶ非常に貴重な経験だったと思っております。

最後に 1 年と半年の間、御指導、御鞭撻を頂きました中山敬一先生、中山啓子先生、北川雅敏先生、畠山鎮次先生、そして周りで暖かく接してくれました、ポスドク、大学院生、実験補助員の方々そして木村さんに御礼申し上げます。そして分子発現制御学部門のこらからの益々のご発展をお祈り申し上げます。



教授ご就任 10 周年おめでとうございます

平成 15 年度入学 雑賀徹

私は中山研でお世話になりもう 4 年目になってしまいました。4 年前の冬、最後まで中山研に行くかどうか悩んでいたのを思い出します。自分一人で悩んでいても結論は出ないので中山先生にメールでいろいろ聞いてみることにしました。するとメールを送信して 3 秒後くらいに私の携帯電話がなりました。中山先生からの電話でした! 電話でいろいろお話ししているうちに中山先生の熱意に感銘を受けて中山研にくることを決めたのを思い出します。大学院に入った最初の頃は、研究を全くやったことがない私はミーティングや JC でみんなが話していることが全くわからずちんぷんかんぷんでした。それから 3 年半、なんとかやってこられたのは中山先生のご指導、先輩方のご指導のおかげだと思っています。中山研の今後の更なる発展を祈っています。



N山オーナーが抱えた不良債権のお話

平成10年度入学 南嶋 洋司

あれは1997年の秋。先輩に“何処か行きたいところあるか”と訊かれたMくんは、“領域を問わず超一流のところ”と即答。その先輩はずいぶんと考えた後、こう言った。『“ちょっとだけ”きついかも知れないけど、すごく良いところ知ってるぞ。』

半年後、その“すごく良いところ”への受け入れのお願いや、しまいには書類手続きまでし忘れてたりと、ほんとにやる気あるのか？と思われるような失態の後、Mくんは、なんとか無事に馬出にやってきたのだが……。実績があり、開幕一軍を約束された他の若い新人たちとは裏腹に、若くもない素人のMくんには居場所などあろう筈もなく、彼は百道ではなく雁ノ巣で開幕を迎えたようなものだった。ただ、北国出身の、熊のように大きな一軍ヘッドコーチは、まだポジションすらも決まっていな二軍の新人選手Mくんにも容赦なく愛の手を差し伸べてくださったし、湘南出身の監督/GM兼任のN山オーナーに至っては、抱え込んでしまった不良債権Mくんの処分方法に深夜（正確には早朝）まで頭を悩ませてくださったし、おまけにグラウンドも1研→旧館3階→2研→1研→2研と目まぐるしく変わったおかげで、Mくんはまったく退屈することなく1年目を過ごさせていただいたようだ。

2年目に入り、1対0の大型トレード（放出とも言ふ）でMくんは旧館2階へ。ここの選手寮には、その後何度となくミーティングを寝飛ばしてしまうことになるほど寝心地の良いボンボン・ベッド（寄贈・監督/GM兼任のN山オーナー）があり、新館一階にはとっても綺麗なシャワー室まで完備。トレードに伴い、先述した体の大きな早起きのヘッドコーチの強化指定選手から外れてしまったし、新しい女性コーチは夜遅くまで仕事をされるしで、Mくんは朝も際限なく遅くまで（ボンボン・ベッドで）寝るようになってしまい、夜も長時間ダラダラと選手寮で過ごすようになってしまう。しかし、とっても良く食べる後輩新人との慶州・玄風館・犬丸などなどのディナーに月収の1/4を注ぎ込んだりと、食生活はリッチであり、国民に保証された健康的で**文化的な最低限**の生活以上の生活は過ごさせていただいていたようだ。

3年目に入り、今度は男性顔負けの酒好きの新人が入ってきて、肉中心だったMくんの食事にエチル・アルコールが加わるようになり、さらに健康的で**文化的な**生活を送るようになる。

そんなことをしているうちに、Mくんもプロ入り4年目。なすところもなく契約最終年を迎えてしまったこと、未だ自分のポジションが決まらないこと、巧く行かない対人関係、自分及び自分の将来に対する漠然かつ巨大な不安などなど、人を悪性に形質転換するには充分の材料が日に日にMくんの心の中に蓄積していき、何処かで聞こえる誰かの笑い声すら許せなくなるほどに心が

壊れてしまう。だが、故障者リスト入りと言う名の休暇などを経てなんとか建て直し、晴れて契約期間を満了。これがよっぽど嬉しかったらしく、すっかり気を良くしたMくんは、こともあろうにメジャーリーグへ挑戦するという拳に出してしまう。

かくして 2002 年春に意気揚々と渡米したMくんではあったが、亜米利加では（も？）トラブル続き。渡米直後からオーナーとの確執もあって活躍機会がないまま 2 年半の月日を浪費してしまった揚げ句、所属球団は財政破綻してしまう。日本球界へ復帰しようにも受け皿はないし、軍資金が底を尽き家族は帰国してしまうので、Mくんはかなり不安定な時期を過ごしたものの、これも何かのチャンスだと一日に 500 回ほど自分に言い聞かせ、現球団へ移籍してなんとか元気に今に至っているようだ。

・・・以上、私のよく知るMくんのお話でした。

僕としては、もともとMくんの能力や適性には甚だ疑問でした。頼みの基礎体力も落ちてきたようだし、ついでに軍資金すらもハコ状態。ただ、彼は意地の張り合いなら昔から誰にも負けなかった輩なので、どうせ張るんだったら張れるだけ張ればよいのでは？って思ってます。

たまに観る古巣の公式ウェブ・サイトに big journal の名が出ていると、Mくんは嬉しそうな顔をして読んでます。

Mくんの住む Boston は綺麗な街です。福岡から乗り換え 2 回で“たったの” 20 時間のフライトです。東海岸へお越しの際は是非連絡してやってください。きっと喜ぶと思います。

では皆さん、またいつか、何処かで笑顔でお会い出来る日を楽しみにしております。

どうか身も心も健康でお過ごしください。



Hiroyuki Imaki



十年一昔

10周年記念イベントが開催されると聞いたとき、「行きたい！」と思いましたが地方の基幹病院で人数も少ない状態で思うようにスケジュールを合わせられず、文章にて失礼致します。

思えば私が医学部の5年生として基礎配置で配属されたとき、誕生したばかりの中山研は人も多くなく、暇なときに全員でジュラシックパーク見に行ったりするほどでした。(その後あっという間に人口急増しましたが)

その頃は夜中(深夜です)になると教授がダイエットコーク片手に各研究室を「どう？」と雑談して回られており、今やっていることなどを話したものでした。

当時面白い話の一つ、あるとき啓子先生が私に「今木一昨日うちに泥棒が出たのよ！」と言われ聞けば机の中の小銭が無くなっており、深夜に誰か侵入者がいるとのこと。もしそうなら、深夜にも教授がいたりして鉢合わせして襲われたりして大変なことになるかもしれない。と皆真剣に怖がっていたところ、犯人は教授その人でジュース代を持っていったというオチでした。

その後大学院の入試も無事に終わり、4年間の大学院生活を送らせて頂きましたが実にエキサイティングな毎日でした。今や、臨床医学に身をおく者としては、個々患者さんや病気のことを常に考えていなければならないのが悩みでもあり喜びなのですが実験のみに自分の時間を使える院生という立場は羨ましいほどです。

しかし4年の月日は非常に短く、某先輩の少ないデータでも一杯あるように見せる「上げ底プレゼン」やOHP一枚で乗り切る「神風プレゼン」はどうしても体得出来なかったことが心残りです。

最後に10周年おめでとうございます。素晴らしい業績は外部にいてもいろいろ聞こえてきます。

益々のご発展をお祈りしております。

10th anniversary of K1' s Lab. そして今思うこと

第3期生 恒松 良祐



毎日が慌ただしく過ぎ去り 2006 年も残すところあとわずか、というところまで来た。産婦人科医として再スタートを切って 8 ヶ月。われわれを取り巻く環境は 10 年前とは大きく様変わりし、“絶滅危惧種”ともいわれる産婦人科医、そして周産 期医療はまさに崖っぷちにたたさされているという現実をまざまざと見せつけられている。中山研を巣立つ前日までフルタイムで実験をして、その時は次の週から病院勤務をすることが到底信じられない心境であったが、今となってはクスコの代わりにピペットマンを毎日握って格闘していた自分というものがまるで夢の中の出来事のように感じている。膨大な数のマウスを飼育していたことも…。まだ 1 年も経っていないが、この 4 月からの日々はそれだけ慌ただしく、そして濃厚であったのだと思わざるをえない。

産婦人科のある後輩から「臨床に戻って 3 ヶ月くらいはすごくきついですよ」と言われていたが、確かにはじめはいろんな意味できつかった。いつものごとく大きな環境の変化により約 5 kg ほど体重も減った。でもそれもそれほど長くは続かず、ゴールデンウィークを迎える頃には自分なりのペースをつかめるようになっていた。そして体重も…。自分ではあまり気にしないようにしていたが、卒後 11 年目。自分よりも若い連中の方がいろんなことを知っているし手術もできる。常識だっといういろいろ変わってきている。早産に対するステロイド投与？、子宮頸癌に TJ 療法？、オーダーリングシステム？、DPC？。まあ仕方ないさ、とは思っても、帝王切開でなかなか赤ちゃんの頭が出せない自分に苦悩していた。九州医療センターとはいろいろな意味で非常に働きにくい病院だと聞いていたが、実際にやってきてみるとそのようなことは皆無であり、スタッフにも恵まれて自由にやらせてもらいつつもいろいろアドバイスもしていただき、リスタートには結構いいところに回してもらってよかったな、と思っている。毎日少しずつの手応えを感じつつ、誕生の喜びと別れの悲しみに接しながら駆け足で過ぎ去った 8 ヶ月だった。

年が明けるとまた人事のシーズンがやってくる。来年度はまだここにいるのか？それとも大学に呼び戻されるのか？決定するまでは不安がつきない。産婦人科の新しい教授は自分の研究のキャリアをそれなりに評価してくれているようなので、下馬評ではどうも大学らしい…。次に大学の地を踏んだときに自分に何ができるのか？これからが本当に自分の真価が問われるのだと思う。臨床も研究も一所懸命にやればどちらもやりがいがあるし、喜びもあるし、そしてきつい…。これから自分にどのような立場があたえられるのか現時点では全くわからないが、与えられたことをこなささらにプラスアルファを上乗せできるようにとこれまで自分は頑張ってきたつもりだ。中山研で培った知識、経験、精神修養(?)は今病院で勤務している中でも全く無駄にはなっていないと思うし、これからも自分の糧となり続けると確信している。年齢 35、人生の 5 分の 1 もの期間を過ごした中山研。今振り返ると本当にずいぶん長いこといたものだ。

そして最後に、中山研究室創立 10 周年、心よりお慶び申し上げます。

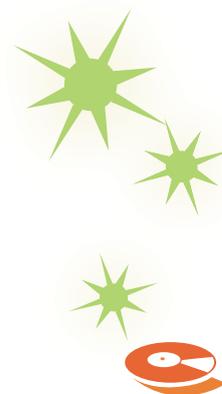
中山先生、並びに現所属メンバーの皆様の益々のご発展を祈念いたします。みんな頑張れ！



－ 原点回帰 －

平成 12 年度入学 原 太一

中山研を卒業して3年が過ぎようとしている。寄稿を書くにあたって昔のことを思い返していると、なかなか筆が進まない。中山研での大学院生活では、中山敬一先生をはじめとし、北川先生、啓子先生、そして嘉村先生と多くの指導教官にめぐまれ、多方面の観点からの研究を経験することができた。そのことは、私の研究基盤を作る上でおおきなアドバンテージになっていると思う。加えて、畠山先生や松本さん、白根さん、石田さんなど多くの諸先輩研究者から貴重なコメントをもらうことができたことは非常に有り難かった。もちろん、厳しい環境でつらい時もあったが、それを堪え忍ぶことができたのは多くの先輩、同僚、後輩、テクニシャン、秘書の方々の心遣いがあったと思う。このような中山研での研究生生活を振り返ると、非常に有意義なものであったと痛感している。現在はオートファジーによるタンパク質分解研究のフィールドに地盤を移して、新たな研究人生をスタートさせている。なんとか、中山先生に初陣の成果を報告できたことは幸いであった。次の20周年(?)では、どこで、なにをしているかは分からない。ただ、変わらないことは自分の研究の軌跡において原点回帰する場所は中山研であるということである。人生のいろいろなポイントで初心にもどって自分を振り返ることは、忘れかけた大事なことを再確認できる良い機会となる。私の原点回帰において必須の場である中山研が、ますます発展することを心より祈り筆をおくことにしたい。



続「道」

男三十代の新たな人生のはじまりに、燃える闘志を胸に抱きノースカロライナの地に立って早一年九ヶ月が過ぎた。二年前の十二月、中山教授にアメリカに武者修行に行ってみないかといわれ、迷いに迷った。これ以上体型がアメリカナイズしたらどうしようかと。しかし、中山教授の「バカになれ！」という一言に猛烈に感動し、渡米決断した。翌年四月、アメリカの入国審査で初めて気がついた。英語が全くできないことに。五月、三十歳の誕生日に車を手にいれ、うれしくて地図を持たずにハイウェイをぶっ飛ばした。迷いに迷って、気づいたらバージニア州だった。八月、ミーティングで初めての発表。あまりの恐怖にスライドに全部セリフを書いた。スライドに書いてある英語は分かりやすいねと褒められた。十二月大晦日、州都に花火を見に行こうとし、迷いに迷って、サウスカロライナ州まで突っ切って年越しした。日本がちょっぴり恋しくなった。年明けて三月、日本国発行の国際免許証をポリスが全く信用せず、生まれて初めて裁判所に出頭させられた。判事の英語はさっぱり分からなかったが、無罪を勝ち取った。全米が泣いた。七月、独立記念祭を見に行った。ふと気づいたら、胸に手をあてアメリカ国歌を斉唱している自分がいた。アメリカが大好きになっていた。そして現在十二月、体型もすっかりアメリカナイズしてきた今日この頃。ヤバイと思い、スカッシュを始めた。

三十而日本を発った僕は四十而迷わず帰国できるのだろうか。

この道を行けば　　どうなるものか
危ぶむなかれ
危ぶめば道はなし
踏み出せば　　その一足が道となり　　その一足が道となる
迷わず生けよ　　行けば分かるさ

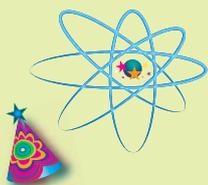
ふと、ここまで書いてあることに気がついた。どこかで似たような文章を読んだことがあるぞと。なにげなしに五周年記念誌を開いて、初めて気がついた。嗚呼、そうか。俺は軍曹閣下の闘魂を伝承していたのかと。

最後となりましたが、中山教授並びに同門会の皆様方の益々のご発展をお祈りして、、、
ダァ—————！！！！

神武@バーガーキング



The truth



Fumihiko Okumura

MEM-L51

The Scripps Research Institute

10550 North Torrey Pines Road

La Jolla, CA 92037

Moloreit



okkun@scripps.edu

Moloreit

祝！創立 10 周年 —わたしの真実—

奥村 文彦

中山 敬一教授、この度は創立 10 周年おめでとうございます。この前 5 周年記念をしたばかりのような気がします。ええ！もう 5 年経ったん！？とチビりました。九大薬学部の博士課程に進むことが決定済みであった僕がなぜ分子発現の門を叩いたかと申しますと、そこのラボでは自分のノートパソコンは置いていいけど、デスクトップはダメというルールがありまして、どうもそれに納得できなくて何度か話し合ってるうちに、(もうどうでもいいや、どっか他に行こ) と思い先輩にチラッと聞いた「生医研」の存在を知り、ネットでチェックした結果たくさんの女性が楽しそうに微笑む分子発現の 4 月の集合写真を発見し、ここに行くべし！と直感したからであります。世界トップレベルの研究室だとは夢にも思いませんでした。そういうわけで、当初はその甘っちょろい意識レベルを 2 研で畠山先生にガツンガツンやられ、グルミ・JC では中山先生に怒られない事などなく、キツイ日々でした (T_T)。現在は分子発現で 4 年間教育を受けられて良かったー、と実感してます。マジでそう思います。アメリカでポスドクなんてやっていけるんかとかなり不安でしたが、来てみてまず思ったのは「学ぶ事が (英語以外) 何もない・・・」でした。たまたま現在のテーマがこれまでとあまり変わらない事もありますが、ホントになんも学んでません。裏を返せば分子発現で主なテクニック、必要な知識を十分に習得させて頂いたという事です。きりがないので名前を挙げませんが、教授をはじめ周りの方達にいろいろ教えていただきました。有り難うございました。特に 2 研は混んでましたが密着しながらいろいろ教わりました。家族のように毎日夕食も一緒に食べました。一方、4 年生のときは広いコラボで嘉村先生に「教育」して頂きました。あのタイミングで分子発現で 4 年間過ごせた事を幸せに思います。個性あふれる同級生にも恵まれいろいろと濃い研究生活を過ごせたと思います。それでは一句、「秋空や 毎日ジメジメ Western」。

中山先生の名言集（迷言集？）

気がつけば私も中山研究室に長居をしており、いつの間にかあねご（長老？）となっていました。中山先生には、研究者としてどうあるべきか、多くの貴重な教えをいただきました。ありがたいお説教の数々を忘れない為に、この機会に書き留めておきたいと思います。この研究



室に今いる人には耳慣れた（耳の痛い？）、また過去に在籍した人には懐かしいお言葉かと思えます。

ひとつは「一番を目指すこと。一生懸命にやること。」です。実験も勉強も学会もセミナーもソフトボールも、何でも結果が全てで一番を志すことが大事だということです。当然サイエンスに関しては、トップを狙う以外ありえない、といった檄が飛んできます。私は中山先生から半強制的に背中を押してもらうことで怠惰な心や恥じる気持ちも克服でき、というか否が応でも一生懸命にならざるを得なくなり、結果、いろんな場面で自分一人の意志ではなしえなかった成果を手にすることが出来ました。サイエンスに限らずどの世界でも、超一流で活躍する人は人生の多くのことを犠牲にしています。それは苦しくつらいことではあるけれど、物事を成し遂げるためのひとつの生き方であるということです。この教えを実践することは容易なことではありませんが、やるからにはそのくらいの覚悟が必要であるということで、私自身現在も修行中です。

日常的に良く出てくる例では「カラオケもジャーナルクラブも選曲が最も大事」という話があります。ちなみに私はジャーナルクラブで「選曲がぜ～んぜ～んだめ」と何度も怒られたものです。中山先生の言われる通り、サイエンスのみならず全てにおいてテーマの選択は重要だと思います。それはセンスや感性が全ての上位に位置するということであり、またそれは努力である程度は磨けるということです。

もう一つ良く出てくる言葉が「良いものはまねしろ」です。私も今では恥ずかしがらずに、偉い人であろうと後輩であろうと良い人のまねして自分を向上させる手段にするよう、心がけるになりました。

その他にも、個人的なことで、ここ一番の勝負の際に中山先生にご指導いただいた印象深い思い出があります。ひとつはさきがけの応募の時です。何とか独立研究者としての道を開拓したいと思っていた私はさきがけに応募し、幸い一次審査をパスしました。その時中山先生が、全ての仕事をやめて二次審査の準備に全エネルギーを注ぐよう強く言って下さいました。それまで実験をしなくても良いなどと言われたことは一度もなかったのですが、とにかく2週間なにもせずひたすら準備に取り組みました。おかげで審査に通り、それは私の研究者としての礎を築く大きな力となったと思います。もうひとつは Protrudin のペーパーに取り組んだ時です。潰瘍を患いながらリバイス実験をした FKBP38 の論文がやっと通り、これからは楽しく研究できるという解放感を味わっていた時期でした。FKBP38 KO mouse など放置していた実験に本腰を入れようと意気込んでいました。

ところが同時期に新規タンパク質 Protrudin を発見し、またもや中山先生からお達しが出されました。Protrudin 研究以外のことは全て禁止、他の実験は放置すること、海外出張も禁止、とにかく実験、といった厳しいものでした。嬉しい発見、楽しいはずの研究がいつか苦しみに変わっており、リバイスの頃には鬱病状態でした。でも今となっては自分の弱い心に鞭打ってくださったことに感謝しています。

時にはあまりの厳しいご指導に反発し、逆に10倍返しくらいのきついお説教を食らった場面も度々有りましたが、結局は中山先生のお考えが正解であったと後から悟ることの繰り返しだったように思います。

いつか自分も独立して研究していかななくてはならないですが、中山先生をお手本として同じお説教をできれば、と思います。(無理?)

10年経って中山研究室も大きく発展し、在籍していることを嬉しく思います。改めて中山先生と研究室の皆様感謝します。そして創立10周年に心からお祝い申し上げます。



光安さん、ありがとう!!!



祝10周年の中山研究室に着任して

平成18年入室 東田裕一

「中山研究室10周年」おめでとうございます。
10月生まれでもうじき研究歴10年になるこの私が、
10周年の中山研に10月にスタッフとして着任した
ことはどんな巡り合わせかと考えてみると、留学中、

同じ研究所に中山研の卒業生である神武さんが来られたところから始まったように思えます。私は学生時代に中山先生を端から拝見したことはありませんが、当時の私から見ると『大分遠慮無しに質問をする先生だ』と思っていました（今の私には違和感はありませんけど）。そんな中山先生から私にスタッフのポジションについて電話がかかっていると神武さんから言われた時は、「驚き」の一言でした。しかし、『これも全く予想の出来なかったことの一つだな』と今では思っています。私は過去の中山研について何も知らないのに、着任後2ヶ月に思うことを書くことにしました。この2ヶ月の正直な私の状況は、戸惑うことだけといった感じです。私は自分がスタッフという状況は初めてですので、中山先生や研究室の人達に一体どんな風に振る舞っていいのかわからず、皆さんにも気を使って頂いたと思うのですが、『何か学年の上の方の学生みたいな感じで落ち着いているのかな』と思います。中山研での日常については、JCの後に得体の知れない疲れがどっと出ることに代表される様に、『新しい環境に慣れるまでもう少し時間がかかるし、この疲れは取れんだろうな』と思っています。中山先生は、タイプは違えど前ボスと同じくパワフルな先生ですので、『アクティブなラボのボスは大体同じなのかな』と思います。私も人生31年、研究歴10年で獲得したものがありませんので、中山先生のパワーに圧倒されずにご指導頂きながら、自分の道を進みたいと願うところです。ただ着任後の感想を述べましたが、話を「10周年」に戻しますと、「10周年」と言えども中山先生の御年齢からすればまだ3分の1。この先少なくとも2倍はあるのかと思うと凄いことです。そして、私はこれから「10周年」から先の中山研究室の一員として研究を行っていきますので、中山先生を初め、中山研の皆様にはいろいろとお世話になりますが、どうぞ宜しくお願い致します。

祝！中山研10周年



Masaki Matsumoto

masakim@bioreg.kyushu-u.ac.jp

中山先生教授ご就任10周年おめでとうございます。私が中山研に来てもう9年になろうとしているわけで、時間がたつのは実に早いものです。周りを見渡せば、細胞学部門時代を知っているのは極限られた人だけです。メンバーが替わっても厳しいJCやGMなどラボの雰囲気はあまり変わっていないような……。変わったのは飲み会が2次会、3次会、朝までフルコースがなくなったぐらいでしょうか。思い起こせば、最初は「こんな厳しい研究室でやっていけるのだろうか？」と思ったものです。ものすごい勢いで実験される畠山先生のプレッシャーに押しつぶされそうになりながら毎日を必死で過ごしていたことを思い出します（事実、研究面に加えて、宴の席でもつぶされた人が居たとかいないとか…）。

その後も超個性的な大学院生の皆さんやスタッフの先生方と一緒に研究生生活を送っていることはとても有意義で刺激的なことです。何よりも中山研の本流から少しずれた私の研究を寛大に見守ってくださる中山先生には感謝しております。これからも、中山研から世の中をあっと驚かせるような論文が出続けることを願って筆をおきたいと思います。

中山研10周年おめでとうございます！

松崎 芙美子

様々な伝説を残しながらついに迎えた10周年、本当におめでとうございます。この伝統ある中山研に、つい9ヶ月前勢いと憧れでやってきた、何もわからない私を受け入れてくださってありがとうございます。いつの間にか壊れたキャラが定着してしまい、持ち前のハイテンションとおる声も相まって本館の皆様には大変ご迷惑をおかけしています。

ここに来てみて、なんと毎週行われるという個別M、GM、JCに質問のduty。よくわからない皆の会話と、ときにとびかう熱いディスカッションに右往左往するばかりです。そんな、来年から学生になるテクニシャンという少し難しい立場の私に、中山先生・白根先生をはじめとする皆様方には暖かいお心遣いと特別のご配慮を賜り、感謝の極みであります。このご恩にお応えすべく、同じ農学部出身でご活躍されている先輩方の後に続き、結婚△出産×のフレーズにおびえつつも突っ走るつもりです。

リトリートでかいま見た大日本帝国軍の結束でもって、中山研がよりいっそうの飛躍を遂げることを願っています！

健康男子募集中
fumu@bioreg.kyushu-u.ac.jp



次期博士課程1年

松崎ふくみん

分子発現制御学分野

不純愛物語

平成 13 年入学 西山 正章

妻と出会って 9 年になる。交際期間のほとんどをラボで過ごした。結婚するまで北九州との遠距離恋愛であったが、週に 1-2 回のペースで彼女が福岡に通ってきた。駐車場が 1 台分しかなかったため、深夜に自分の車を東門に置き、彼女の車で家に帰った。思う時間に実験が終わり、彼女を待たせ怒らせる日常だった。

大学院に入るとき、少なくとも 4 年は結婚できんから別れようと切り出した。いつも同じような理由で女と別れてきたが、彼女は何も言わずに付いて来た。実験が失敗すると弱音を吐き、うまくいくと近所の居酒屋で飲んだ。ほとんど遊びに行くことはなかったが、夏には海に行った。と言っても、彼女は僕がサザエを採るのを見てただけだ。

MASAAKI
NISHIYAMA

nishiyam@bioreg.kyushu-u.ac.jp

3 年が過ぎ、ようやく卒業の目処が付いた頃、やっぱり彼女はそこにいた。プロポーズとはとても言えないが、子供ができれば結婚しようと言った。しかし、思ったほど簡単にはできず、淡々と月日が流れた。半ば諦めかけていた頃、彼女が妊娠したのを知ったときは正直動揺した。マジで結婚するのかと。

妊娠が判明したのも束の間、切迫流産の危機に瀕した。必要に迫られ彼女の両親に会い、思いがけずも結婚宣言してしまった。が、彼女の状態は速やかに改善した。臨月を迎え、彼女が太り過ぎたせいで、深夜に帰宅してから一緒に散歩させられるようになった。この辺りから（というか、最初からなのかもしれないが）、完全に彼女が優位になった。

そして娘が産まれた。どんな女にもない柔肌で、何とも言えないいい香りがする。クワガタやマウスとは比較にならず愛おしい。一緒に寝るだけで一向になつかず、おいでと言ってもイヤと



言われる始末だが、帰宅したら妻に気付かれぬように寝入った娘を舐め回すのが、一日の癒しの時間である。

人生は果敢ない。死は突然に訪れて、真っ暗な闇に包まれるのだろう。いつ死んでもいいとまでは言えないが、最期に世は満足と言い残したい。幸せを掴むためには、多くの犠牲を伴う。自分のような無能な人間は尚更である。全てを切り捨て、ピンポイントに全力を注げばこそ掴める幸せもあると信じている。家事や育児を放棄し、偉そうな

ことを言いながら、訳の分からぬことをやっている、そんな男に妻はいつまで付いて来れるのだろうか。You can't have everything.

いつの間にか、すっかり誰かに洗脳されてしまったようだ。



Etsuo Susaki

etesusaki@bioreg.kyushu-u.ac.jp

中山研 10 周年記念に寄せて

早くも 10 周年！おめでとうございます！！学生時代から顔を出させていただいていたので、この研究室の半分以上（7 年くらい？）の歴史を知っていますが、多くの人が出向き、キャリアを積み、そして新たな場所へ動いていくさまを間近で見してきました。人が入れ替わるとに変わるものはラボの雰囲気ばかりにとどまらず、中にいる自分の立場こそどんどん変わってきていることに、いまさらながら長い時間を過ごしたものだと思わず驚くばかりです。福岡好きだからいいんですけど。これからもたくさんの人たちにとってよき研鑽の場であってほしいと願っていますし、先生の熱い指導力はこれからも益々冴えわたることと期待しております。（実際に、内外の先生方からも「中山研はどんな指導をしているんだ！？」と、しばしば聞かれます。それだけラボメンバーに深く伝わる指導をしていらっしゃるということだと思っております。）今いるメンバーの皆さまは、実にすばらしい環境にいることをよくよく知った上で、大いに先生の薫陶を受けるべきでしょう。そして、若くして教授になられた中山先生はまだまだ長い研究キャリアを送られると思います。ここを巣立ったヒヨコたちが親鳥になるころには、きっと親鳥が自分のヒヨコたちにあげるエサ（＝研究費とか利権とかポストとかとか）を自在に操ることができる、とってもステキなお立場になっていらっしゃる（；；；）イイ！！と、今から大いに当てにする次第でございます。次の 10 年に向けて、中山先生と中山研の更なる飛躍を！！



洲崎 悦生



九州大学生体防御医学研究所



細胞機能制御学部門 分子発現制御学分野



（中山敬一 教授）CREST 研究員





Yukari Yamada



yyamada@bioreg.kyushu-u.ac.jp

発生工学実験室より感謝を込めて

中山先生・分子発現制御学分野の皆様、教授就任・研究室創立 10 周年おめでとうございます。

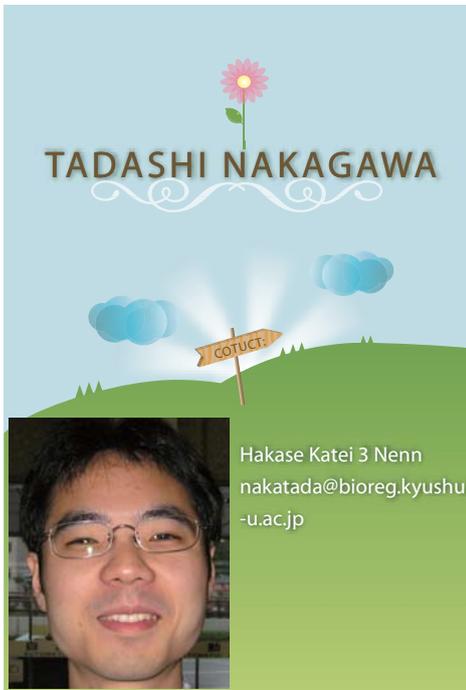
さて、発生工学実験室は H8～12 年まで中山敬一先生・啓子先生が施設長・副施設長として、多くの方々の協力を得て再生し、現在の基礎を築かれた

ものです。発足当初に実験動物の品質管理の重要性、胚操作の有用性を周知徹底された事で、その後の紆余曲折にも存在意義がぶれる事なく現在に至る事ができました。現在は総勢 12 名の結構な所帯となり、場所も総合研究棟 9 階に移動しました。当初より共に歩んできた長沢・岩田・大浦を筆頭に（相変わらず）かまびすしい日々を送っております。また、当時は分子発現制御学のスタッフ・院生の皆様のご協力・励ましを得て当実験室は成り立っており、思い出をたぐれば感謝の念と共に賑やかな皆様の笑顔が甦ります。共に育ち、共に 10 周年を迎えられる事を心より嬉しく思い、感謝を込めてお祝い申し上げます。

10 年前、私はまだ前任地において社会人 1 年生でした。慣れぬ仕事に泣き泣き取り組み、薄給生活にあえぎながら、ステップアップを図っておりました。そんな折、現職へチャレンジする機会が到来し、社会人 2 年目から中山敬一先生・啓子先生の指示を仰ぐようになりました。振り返ればエピソードは枚挙に遑がございませんが、印象深いのはやはり“最初”。面接試験で両先生にお会いした時の事です。試験官として入って来られたヒゲもじゃの中山（敬）先生におののき、白衣に身を包み優しく問いかける中山（敬）先生によく似た中山（啓）先生のお顔を見比べつつ受け答えをし、内心「え？兄妹で大学のセンセイ？しかも同じ職場？すごっ！」と甚だ勘違いした感動をしておりました。試験後、旧館まで案内して下さった啓子先生に「職場見学もしないで、よく決めたね！」と言われ、そこで初めて己の無鉄砲さに気がつきました。若気の至りでした…。その甲斐もあり（？）私も社会人 10 周年です。大半を中山研で過ごし多くの方に出会い、叱咤激励を頂きここまで頑張ってくることができました。今後も各地での皆様のご活躍を刺激にしつつ、感謝の気持ちをお伝えするつもりで日々業務に務め、これまでの自分に恥じないような未来の自分を創造して行きたいと思っております。皆様の更なる飛躍と発展を心から願いつつ……。

「ある日の昼下がり」

3年B組 中川 直



ある日の昼下がり、博士課程3年の私（中川）が大濠公園を散歩していると、老人と青年が以下のような会話をしていました。

青年「中山研が10周年記念会をするそうです。何か寄稿しなければならぬのですが、先生、どう思いますか？」

老人「どうって、君、唐突だね。それでは聞くが10周年とは何か？」

青年「質問返しですか、まあいいです、何かの事象が10年続いたということです。」

老人「それでは、記念とは？」

青年「思い出として何かを行ったり残しておいたりすることです。」

老人「それでは、なぜ10周年を記念するのか？」

青年「さあ、切りがいいからではないでしょうか。1桁から2桁になるし。」

老人「適当に答えるでない。そう言ったら議論が続かないではないか。まあよろしい、それでは中山研とは何か？」

青年「なんだ、いいのですか。それならいちいち怒らなくてもいいのに。寿命が縮みますよ。」

老人「言葉を慎みたまえ。まだ君に心配される年ではないわ。で、中山研とは？」

青年「九州大学・生体防御医学研究所の一つで、中山先生が主宰している研究室のことです。」

老人「ほー。中山先生という御人は、先生を10年も続けられたのか、感心じゃの。」

青年「先生、先生というのはそれほどたいへんなものなのではないでしょうか？」

老人「それはそうじゃ。わしを見てもわかるじゃろう。こんなに老けてしまうまでがんばらなければいけないのだから。ごほ、ごほ、ごほっ。」

青年「先生が老けているのは、ただ長年の不摂生のためでしょう？」

老人「ばかたれっ。君はわしを馬鹿にするために話しかけたのか、この罰当たりめ。」

青年「すすみません。ほんの出来心です。そう怒らずに先生の意見をお聞かせください。」

老人「わしも大人げなかったな。反省、反省。では、本題へ。先生というのは生徒がいて、はじめて生じる職業じゃ。そうじゃな？」

青年「たしかに。生徒のいない先生というのはへんですもの。」

老人「先生の仕事というのは、生徒を指導することじゃ。これはたいへんなことじゃ。自分のことより生徒のことを優先しなければならない、つまり自分の自由が生徒のために減ってしまうことになるから。」

青年「へ、そうでしょうか。よくわかりません。もっと具体的に話していただけないでしょうか。大体、先生というのは生徒のことより自分のことばかり考えているように見えますが。」

老人「君はまだまだ青いのお。青い、青い。青すぎて藍もびっくりじゃ。」

青年「・・・(ちえ、さっきの仕返し、でもここは我慢、我慢。)」

老人「だいたい考えても見たまえ、先生が自分のことばかり考えていては生徒に見離されるであろう。そうしたら先生は仕事ができないではないか。生徒が言うことを信じてくれなければ指導などできないのだから。そうすると自然、先生は仕事をするために、生徒のことを第一に考えなければならなくなる。そうすると自分のための時間、つまり自由がそれだけなくなる。要するに自分を犠牲にしているわけじゃ。のう、そうじゃろう。実に殊勝なことじゃ。」

青年「なるほど、確かに。なんとなく騙されたような気もしますが、言われてみればその通りですね。」

老人「急に素直になったね。いい心がけじゃ。正直は最良のポリシーというからね。」

青年「ポリシーだけ英語のままとは、先生、気取ってますね？」

老人「君、もう帰りたいまえ。」

青年「すみません、またしても怒らせてしまった。若気の至りでした。ところで良い先生とはどのような条件を備えていなければならないのでしょうか。」

老人「都合のいい奴じゃ。まあ、よい。それに答えるには一週間くらいかかるがいいかの？」

青年「それはいけません。明日はデートだし。極、簡単をお願いします。後は自分で考えますから、なにか手がかりをください。」

老人「調子のいい奴じゃ。しかもデートとは、うらやましいの一。でも、青年、人間的な感情を育てるのは大事なことじゃ。将来きっと役に立つ。勉強だけはいかんぞ。」

青年「はい。重々承知いたしております。」

老人「では簡単にお答えしよう。生徒が勝手に勉強をするように仕向けることができる、これが1じゃ。」

青年「なるほど。それでは2は？」

老人「強制すれば勉強するよう仕向けることができる、これが2。」

青年「ほほ一。で？」

老人「勉強を嫌にさせてしまう。これが最悪の3じゃ。」

青年「なーんだ、3つしかないのですか？」

老人「君が極簡単に、というから3つバージョンを教えたのじゃ。本当はもっとあるの！」

青年「わかりました。それでは、生徒として心がけなくてはいけないことは何でしょうか？」

老人「ひねくれた考え方をしないことが何より大事じゃ。まず、君の先生が信用するに足る人物が見定め、いったんそうと決まったら正直に言いつけを守ることじゃ。ところで君は、太陽、線分、洞窟のたとえを知っているかね？」

青年「はい、勿論。」

老人「そうか、よく勉強しているようだね。それではもう心配はない。行きなさい。そして大いに暴れてきなさい。」

青年「はい。ありがとうございました。ところで、10周年記念会のために何か寄稿しなければならないのですが、先生、どうしたらよいのでしょうか？」

MISSION #IMPOSSIBLE

原案：小坂 康士 文章：田中 佳苗



中山先生、就任10周年おめでとうございます。今後の益々の発展をお祈り申し上げます。また少しでもラボの繁栄に助力できるよう日々精進していきたいと思えます。さて、めでたいことといえば、先日、同期入室の後輩K君のコンディショナルノックアウト用ターゲティングベクターが完成しました。ラボの最下級生は授業と雑用とお勉強で超多忙な中、休日返上

でできた、彼の血と汗と涙の結晶です。コンディショナルノックアウト作成の命が下ったのは7月初めのこと。それからベクター設計までの2週間、記憶の奥底にしまいこんだままでした。親身になって設計を手伝ってくれる0先輩の隣で居眠りをしていたらベクターの設計ができました。プライマーを注文していきゲノムPCR！しかしなかなか増えてはくれません。おかしいなと思ってアニーリング温度をいじっていると、まずはマグネシウム濃度だろ！と愛の指導がはいります。PCRバッファーってマグネシウム入れなきゃいけないのか…。またひとつ大人になった瞬間でした。なんとか short armは増えたものの、さすが8 kbpの long armは一筋縄ではいかない。酵素を変えても駄目でした。反応液中にDMSOを入れると良いというので早速実践！…するとアガロースゲル写真にオーロラが見えました。(Fig. 1) 打つ手がないのでプライマー設計からやり直しです。次のプライマーでは少し増えた！？K君はわずかなDNAを大切にかき集め、これを鋳型にして大量のPCR産物を手に入れました。次の難関は long armのサブクローニングです。4回失敗しました。やっと生えたコロニーを200個つつきました。2つ当たりがありました。このとき採用されたクローン No. 29は彼の宝物になりました。秋の気配が漂う10月末のことでした。いよいよターゲティングベクターへ long armを挿入します。彼は低融点アガロースゲルにサンプルをアプライしました。サンプルは何故か拡散してどこかへ旅立ってしまいました。同じことが2度起こりました。これは2研の妖精の仕業か？(普段からK君には見えるそうです) めげずに3回目を行おうとゲルを作っていたとき、彼は見つけたのです！「コームがゲルを貫通している！」そうです。K君特製の低融点ゲル用コームは見事にゲル版と密着し、結果底なしのゲルを生むはめになったのです。このトラップも見事クリアし、コロニーも無事生えてきて、いよいよゴールは間近に迫ってきました。そして11月某日、10種類の制限酵素で念入りにチェックをおこなって、ついにターゲティングベクターは完成しました。全長17 kbpの大物です。この直後のグループミーティングで、彼は初めて研究に関して教授からお褒めの言葉をいただきました。きっと忘れられない日になったことでしょう。でも喜んでばかりはいられない！マウス誕生まではまだまだです。ましてや論文完成までははるか遠く、いったいいつになることやら、遠目から生温かい目で眺めつつ、今回はこの辺で。

※これは、実際の話に限りなく忠実に作られたフィクションです。

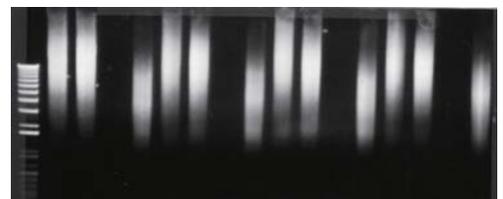


Fig. 1 アガロースゲルに輝く‘オーロラ’

修士課程2年

TOMOKO
SAEKI

EMAIL

t-saeki@bioreg.kyushu-u.ac.jp



10周年、おめでとうございます

中山研にはいつてからもう1年半が経ち、お蔭様で、4歳だった娘も無事に5歳になりました。

思えばあっという間の日々で、自分だけが全く成長していないような気がします。聞こえなくなって寂しい笑い声があったり、また新しい笑い声が聞こえたり、時間は流れますが、皆がこの中山研を起点として、実験技術や知識やそれ以上の大きなものを身につけ、時や場所はバラバラでも皆で、同じ科学の世界で頑張っただけでいいなと思います。

先輩たちから教えてもらったことを、まだ後輩に還元できるほどではありませんが、これからも娘とともに、一生懸命成長してゆきたいと思います。

中山研のさらなる発展と、皆様のご活躍を、心よりお祈り申し上げます。



大日本帝国軍隊 各位

松本 有樹修

中山研は10周年ということですが、私は中山研にきて早くも二周年を迎えようとしています。中山研にきてこの二年間本当にいいことばかりでした。

教授からの指令により、この二年間でおよそ10kgの減量に成功しました。しかも女性にも腕相撲で勝てなくなるほどの、脂肪を落とさず筋肉だけを落とすという研究者として理想的な肉体作りができました。

さらに接待要員としてお酒にも強くなりました。飲み会のたびに日ごろの鬱憤を晴らすためにか、お酒を吐くまで浴びるように飲み、つぎの日頭痛に耐えながら実験をするということを繰り返していたら、最近は酒を飲んでものまれなくなり、話はするけど名前が分からない友人もたくさん増えました。

しかし最近は実験に熱中するあまり、世間に対する興味がだんだんと薄れてきてしまいました。あまりにも無知であると中山研の品格を下げてしまうので、夜な夜なネットで調べたことを知ったかぶりするように努力しています。

この二年間、毎日が刺激的で心身ともにとっても強くなりました。これからも中山先生についていけば間違いはないはずで、今後益々の中山研の発展を期待しています。中山研万歳！！



MIZUHO ODA



祝 10 周年

小田瑞穂

中山先生、10周年おめでとうございます。
私がおこへきてからもうすぐ丸四年が経とうとしています。
月日が立つのは早いですね。思えば大学を卒業したばかりで、
この世界に何も知らずに来たのがはるか昔のようです。
この4年の間に他では絶対に出会わないであろうキャラの
濃い人たちにめぐり合い、中山先生をはじめとする分子発現
の方々には日々公私共に刺激され楽しい毎日を送っております。
このように素晴らしい人たちにも仕事にも出会えたのも、
中山先生がここの職場を私に与えてくださったからで、感謝
感謝です。これからも中山研の20周年30周年へむけて、
益々のご発展とご活躍をお祈り申し上げます。



CREST技術員



小山田 浩二

〒345-6789
東京都港区青山12-34
Vox: 03-1234-1234
Fax: 03-1234-1234
oyamada@bioreg.kyushu-u.ac.jp

中山先生、

教授就任10周年おめでとうございます。
今から4年前、学生時代の先輩である松本さんの紹介
で中山研の面接にきたときに、「コンピュータに詳しい
学生がいなくなったので、よろしく頼むよ」といわれ、
本業の解析プログラムを作りつつ、ネットワークの調
子が悪くなると天井裏に上がりホコリまみれになりなが

ら配線や機器をチェックし、プリンタが調子が悪いと紙詰まりしてないかと壊れるうくらい
にいじり回し、メールの調子が悪いと生医研サーバにログインして調べたりと、なんとか
分子発現全員の日々の研究がうまくいくように駆けずり回ってきました。おかげで、
以前の頭でしか知らなかったコンピュータ知識を実践で試すことができ非常に良い経験を
させてもらっています。

中山研は今後も益々発展していくことと思いますが、健康には気をつけてください。

国家の品格

平成 14 年度入学 小野山一郎

最近の将軍様は優しい。

理由の一つに人材不足がある。この国の土地は昔から肥沃で、頑張って耕せば耕すほど良い作物が育つ。しかしながら、農民がいなければせっかくの肥沃な土地も宝の持ち腐れである。最近の若い人たちはどうやらあまり畑仕事はしたくないらしく、頑張って頑張ってその結果それに見合う結果を得る喜びを知らないらしい。だから、将軍様はどうしても若い人たちに甘くなってしまう。。。

しかし、今、あえて言おう「ぬる過ぎである」と。

ここは、泣く子も黙る「敬一民主主義人民共和国」であったはず。かつての「将軍様の一挙手一投足に畏れ、慄き、そのプレッシャーに耐えられぬ者は亡命するほか道はない…」、そんな殺伐とした雰囲気は私は好きだ。

今、この国に必要なもの…、それは論理よりも情緒、英語よりも国語、民主主義より武士道精神であり、「国家の品格」を取り戻すことである。その意味で、先日の JC で、将軍様から「研究者は鎌倉武士であれ」とのお言葉を聞いた時は大変嬉しかった。

この国における私の役目ももう終わりに近い。これからは、思う存分おらが畑の収穫をすると同時に、頑として揺るぐことのない強固な「敬一民主主義人民共和国」出身者としての誇りと自信を身につけ、それをこれからの世代へ引き継いでいきたい。



＜この国のかたち＞



主な業績集

Hatakeyama, S., Hamasaki, A., Negishi, I., Loh, D. Y., Sendo, F., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Multiple gene duplication and expression of mouse bcl-2-related genes, A1.
Int. Immunol. 10: 631-637 (1998).

Hatakeyama, S., Kitagawa, M., Nakayama, K., Shirane, M., Matsumoto, M., Hattori, K., Higashi, H., Nakano, H., Okumura, K., Onoe, K., Good, R. A., Nakayama, K. I.
Ubiquitin-dependent degradation of $\text{I}\kappa\text{B}\alpha$ is mediated by a ubiquitin ligase Skp1/Cul1/F-box protein FWD1.
Proc. Natl. Acad. Sci. USA 96: 3859-3863 (1999).

Kitagawa, M., Hatakeyama, S., Shirane, M., Matsumoto, M., Ishida, N., Hattori, K., Nakamichi, I., Kikuchi, A., Nakayama, K. I.*, Nakayama, K. (*Corresponding author)
An F-box protein, FWD1, mediates ubiquitin-dependent proteolysis of β -catenin.
EMBO J. 18: 2401-2410 (1999).

Shirane, M., Harumiya, Y., Ishida, N., Hirai, A., Miyamoto, C., Hatakeyama, S., Nakayama, K. I.*, Kitagawa, M. (*Corresponding author)
Down-regulation of p27^{Kip1} by two mechanisms, ubiquitin-mediated degradation and proteolytic processing.
J. Biol. Chem. 274: 13886-13893 (1999).

Shirane, M., Hatakeyama, S., Hattori, K., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Common pathway for the ubiquitination of $\text{I}\kappa\text{B}\alpha$, $\text{I}\kappa\text{B}\beta$, and $\text{I}\kappa\text{B}\epsilon$ mediated by the F-box protein FWD1.
J. Biol. Chem. 274: 28169-28174 (1999).

Hattori, K., Hatakeyama, S., Shirane, M., Matsumoto, M., Nakayama, K. I.
Molecular dissection of the interactions among $\text{I}\kappa\text{B}\alpha$, FWD1, and Skp1 required for ubiquitin-mediated proteolysis of $\text{I}\kappa\text{B}\alpha$.
J. Biol. Chem. 274: 29641-29647 (1999).

Miura, M., Hatakeyama, S., Hattori, K., Nakayama, K. I.
Structure and expression of the gene encoding mouse F-Box protein, Fwd2.
Genomics 62: 50-58 (1999).

Nakayama, K., Nagahama, H., Minamishima, Y. A., Matsumoto, M., Nakamichi, I., Kitagawa, K., Shirane, M., Tsunematsu, R., Tsukiyama, T., Ishida, N., Kitagawa, M., Nakayama, K. I.*, Hatakeyama, S. (*Corresponding author)
Targeted disruption of *Skp2* results in accumulation of cyclin E and p27^{Kip1}, polyploidy and centrosome overduplication.
EMBO J. 19: 2069-2081 (2000).

Ishida, N., Kitagawa, M., Hatakeyama, S., Nakayama, K. I.
Phosphorylation at serine 10, a major phosphorylation site of p27^{Kip1}, increases its protein stability.
J. Biol. Chem. 275: 25146-25154 (2000).

Yamanaka, A., Hatakeyama, S., Kominami, K.-i., Kitagawa, M., Matsumoto, M., Nakayama, K. I.
Cell cycle-dependent expression of mammalian E2-C regulated by the anaphase-promoting complex/cyclosome.
Mol. Biol. Cell 11: 2821-2831 (2000).

Tsukiyama, T., Ishida, N., Shirane, M., Minamishima, Y. A., Hatakeyama, S., Kitagawa, M., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Down-regulation of p27^{Kip1} expression is required for development and function of T cells.
J. Immunol. 166: 304-312 (2001).

Nagahama, H., Hatakeyama, S., Nakayama, K., Nagata, M., Tomita, K., Nakayama, K. I.
Spatial and temporal expression patterns of the cyclin-dependent kinase (CDK) inhibitors p27^{Kip1} and p57^{Kip2} during mouse development.
Anat. Embryol. 203: 77-87 (2001).

Hatakeyama, S., Yada, M., Matsumoto, M., Ishida, N., Nakayama, K. I.
U box proteins as a new family of ubiquitin-protein ligases.
J. Biol. Chem. 276: 33111-33120 (2001).

Hara, T., Kamura, T., Nakayama, K., Oshikawa, K., Hatakeyama, S., Nakayama, K. I.
Degradation of p27^{Kip1} at the G₀-G₁ transition mediated by a Skp2-independent ubiquitination pathway.
J. Biol. Chem. 276: 48937-48943 (2001).

- Maruyama, S., Hatakeyama, S., Nakayama, K., Ishida, N., Kawakami, K., Nakayama, K. I.
Characterization of a mouse gene (*Fbxw6*) that encodes a homologue of *Caenorhabditis elegans* SEL-10.
Genomics 78: 214-222 (2001).
- Minamishima, Y. A., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Recovery of liver mass without proliferation of hepatocytes after partial hepatectomy in Skp2-deficient mice.
Cancer Res. 62: 995-999 (2002).
- Ikebe, C., Kominami, K.-I., Toda, T., Nakayama, K. I.
Isolation and characterization of a novel F-box protein Pof10 in fission yeast.
Biochem. Biophys. Res. Commun. 290: 1399-1407 (2002).
- Yamanaka, A., Yada, M., Imaki, H., Koga, M., Ohshima, Y., Nakayama, K. I.
Multiple Skp1-related proteins in *Caenorhabditis elegans*. Diverse patterns of interaction with cullins and F-box proteins.
Curr. Biol. 12: 267-275 (2002).
- Ishida, N., Hara, T., Kamura, T., Yoshida, M., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Phosphorylation of p27^{Kip1} on serine 10 is required for its binding to CRM1 and nuclear export.
J. Biol. Chem. 277: 14355-14358 (2002).
- Miyamoto, A., Nakayama, K., Imaki, H., Hirose, S., Jiang, Y., Abe, M., Tsukiyama, T., Nagahama, H., Ohno, S., Hatakeyama, S., Nakayama, K. I.
Increased proliferation of B cells and auto-immunity in mice lacking protein kinase C δ .
Nature 416: 865-869 (2002).
- Nakamichi, I., Hatakeyama, S., Nakayama, K. I.
Formation of Mallory body-like Inclusions and cell death induced by deregulated expression of keratin 18.
Mol. Biol. Cell 13: 3441-3451 (2002).
- Kaneko, C., Hatakeyama, S., Matsumoto, M., Yada, M., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Characterization of the mouse gene for the U-box-type ubiquitin ligase UFD2a.
Biochem. Biophys. Res. Commun. 300: 297-304 (2003).
- Oshikawa, K., Matsumoto, M., Yada, M., Kamura, T., Hatakeyama, S., Nakayama, K. I.
Preferential interaction of TIP120A with Cul1 that is not modified by NEDD8 and not associated with Skp1.
Biochem. Biophys. Res. Commun. 303: 1209-1216 (2003).
- Imaki, H., Nakayama, K., Delehouzee, S., Handa, H., Kitagawa, M., Kamura, T., Nakayama, K. I.
Cell cycle-dependent regulation of the Skp2 promoter by GA-binding protein.
Cancer Res. 63: 4607-4613 (2003).
- Shirane, M., Nakayama, K. I.
Inherent calcineurin inhibitor FKBP38 targets Bcl-2 to mitochondria and inhibits apoptosis.
Nature Cell Biol. 5: 28-37 (2003).
- Nakayama, K., Hatakeyama, S., Maruyama, S., Kikuchi, A., Onoe, K., Good, R. A., Nakayama, K. I.
Impaired degradation of inhibitory subunit of NF- κ B (I κ B) and β -catenin as a result of targeted disruption of the β -*TrCP1* gene.
Proc. Natl. Acad. Sci. U S A 100: 8752-8757 (2003).
- Kamura, T., Hara, T., Kotoshiba, S., Yada, M., Ishida, N., Imaki, H., Hatakeyama, S., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Degradation of p57^{Kip2} mediated by SCF^{Skp2}-dependent ubiquitylation.
Proc. Natl. Acad. Sci. U S A 100: 10231-10236 (2003).
- Matsumoto, M., Yada, M., Hatakeyama, S., Ishimoto, H., Tanimura, T., Tsuji, S., Kakizuka, A., Kitagawa, M., Nakayama, K. I.
Molecular clearance of ataxin-3 is regulated by a mammalian E4.
EMBO J. 23: 659-669 (2004).
- Yada, M., Hatakeyama, S., Kamura, T., Nishiyama, M., Tsunematsu, R., Imaki, H., Ishida, N., Okumura, F., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Phosphorylation-dependent degradation of c-Myc is mediated by the F-box protein Fbw7.
EMBO J. 23: 2116-2125 (2004).

- Nakayama, K., Nagahama, H., Minamishima, Y. A., Miyake, S., Ishida, N., Hatakeyama, S., Iemura, S., Natsume, T., Nakayama, K. I.
Skp2-mediated degradation of p27 regulates progression into mitosis.
Dev. Cell 6: 661-72 (2004).
- Tsunematsu, R., Nakayama, K., Oike, Y., Nishiyama, M., Ishida, N., Hatakeyama, S., Bessho, Y., Kageyama, R., Suda, T., Nakayama, K. I.
Mouse Fbw7/Sel-10/Cdc4 is required for notch degradation during vascular development.
J. Biol. Chem. 279: 9417-9423 (2004).
- Hatakeyama, S., Matsumoto, M., Yada, M., Nakayama, K. I.
Interaction of U-box-type ubiquitin-protein ligases (E3s) with molecular chaperones.
Genes Cells 9: 533-548 (2004).
- Kamura, T., Hara, T., Matsumoto, M., Ishida, N., Okumura, F., Hatakeyama, S., Yoshida, M., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Cytoplasmic ubiquitin ligase KPC regulates proteolysis of p27^{Kip1} at G1 phase.
Nature Cell Biol. 6: 1229-1235 (2004).
- Kamura, T., Maenaka, K., Kotoshiba, S., Matsumoto, M., Kohda, D., Conaway, R. C., Conaway, J. W., Nakayama, K. I.
VHL-box and SOCS-box domains determine binding specificity for Cul2-Rbx1 and Cul5-Rbx2 modules of ubiquitin ligases.
Genes Dev. 18: 3055-3065 (2004).
- Okumura, F., Hatakeyama, S., Matsumoto, M., Kamura, T., Nakayama, K. I.
Functional regulation of FEZ1 by the U-box-type ubiquitin ligase E4B contributes to neurogenesis.
J. Biol. Chem. 279: 53533-53543 (2004).
- Nishiyama, M., Nakayama, K., Tsunematsu, R., Tsukiyama, T., Kikuchi, A., Nakayama, K. I.
Early embryonic death in mice lacking the β -catenin-binding protein Duplin.
Mol. Cell. Biol. 24: 8386-8394 (2004).
- Hatakeyama, S., Matsumoto, M., Kamura, T., Murayama, M., Chui, D. H., Planel, E., Takahashi, R., Nakayama, K. I., Takashima, A.
U-box protein carboxyl terminus of Hsc70-interacting protein (CHIP) mediates poly-ubiquitylation preferentially on four-repeat Tau and is involved in neurodegeneration of tauopathy.
J. Neurochem. 91: 299-307 (2004).
- Kotake, Y., Nakayama, K., Ishida, N., Nakayama, K. I.
Role of serine-10 phosphorylation in p27 stabilization revealed by analysis of p27 knock-in mice harboring a serine-10 mutation.
J. Biol. Chem. 280: 1095-1102 (2005).
- Takahashi, H., Hatakeyama, S., Saitoh, H., Nakayama, K. I.
Noncovalent SUMO-1 binding activity of thymine DNA glycosylase (TDG) is required for its SUMO-1 modification and colocalization with the promyelocytic leukemia protein (PML).
J. Biol. Chem. 280: 5611-5621 (2005).
- Kaneko-Oshikawa, C., Nakagawa, T., Yamada, M., Yoshikawa, H., Matsumoto, M., Yada, M., Hatakeyama, S., Nakayama, K., Nakayama, K. I.
Mammalian E4 is required for cardiac development and maintenance of the nervous system.
Mol. Cell. Biol. 25: 10953-10964 (2005).
- Hara, T., Kamura, T., Kotoshiba, S., Takahashi, H., Fujiwara, K., Onoyama, I., Shirakawa, M., Mizushima, N., Nakayama, K. I.
Role of the UBL-UBA protein KPC2 in degradation of p27 at G1 phase of the cell cycle.
Mol. Cell. Biol. 25: 9292-9303 (2005).
- Matsumoto, M., Hatakeyama, S., Oyamada, K., Oda, Y., Nishimura, T., Nakayama, K. I.
Large-scale analysis of the human ubiquitin-related proteome.
Proteomics 5: 4145-4151 (2005).
- Hatakeyama, S., Watanabe, M., Fujii, Y., Nakayama, K. I.
Targeted destruction of c-Myc by an engineered ubiquitin ligase suppresses cell transformation and tumor formation.
Cancer Res. 65: 7874-7879 (2005).

Kotoshiba, S., Kamura, T., Hara, T., Ishida, N., Nakayama, K. I.

Molecular dissection of the interaction between p27 and Kip1 ubiquitylation-promoting complex, the ubiquitin ligase that regulates proteolysis of p27 in G1 phase.

J. Biol. Chem. 280: 17694-17700 (2005).

Fujii, Y., Yada, M., Nishiyama, M., Kamura, T., Takahashi, H., Tsunematsu, R., Susaki, E., Nakagawa, T., Matsumoto, A., Nakayama, K. I.

Fbxw7 contributes to tumor suppression by targeting multiple proteins for ubiquitin-dependent degradation.

Cancer Sci. 97: 729-736 (2006).

Fotovati, A., Nakayama, K., Nakayama, K. I.

Impaired germ cell development due to compromised cell cycle progression in Skp2-deficient mice.

Cell Div. 1: 1-10. (2006).

Tsunematsu, R., Nishiyama, M., Kotoshiba, S., Saiga, T., Kamura, T., Nakayama, K. I.

Fbxw8 is essential for Cul1-Cul7 complex formation and for placental development.

Mol. Cell. Biol. 26: 6157-6169 (2006).

Matsumoto, A., Onoyama, I., Nakayama, K. I.

Expression of mouse Fbxw7 isoforms is regulated in a cell cycle- or p53-dependent manner.

Biochem. Biophys. Res. Commun., 350: 114-119 (2006).

Shirane, M., Nakayama, K. I.

Protrudin induces neurite formation by directional membrane trafficking.

Science, 314: 818-821 (2006).

中山研創立10周年に寄せて

教授 中山 敬一

1996年10月1日に九州大学に赴任してから、今年でちょうど10年が経ちました。当初は私と木村美保子さんしかおらず、広すぎてガラーンとしたラボが、今では多くの研究者や補助員の方々に一杯となり、深い感慨と共に多くの人生を背負っているという責任感をひしひしと感じています。

このラボは私が責任者ですから、一応「中山研」という名称で呼ばれていますが、もとより私個人の所有物ではなくて、一つの機関の名前と考えた方が適切かと思いません。そして各個人の人生の主役がその人自身であるように、今まで中山研に在籍した全ての人々各自が、中山研という舞台上で演ずる主演俳優・女優であって、私は単に監督というかプロデューサー的な役割を果たしてきたに過ぎません。ですから今回の10周年記念行事は、私個人のためではなく、各人が人生の一時期を過ごした舞台への愛着を皆で祝うという気持ちでいて欲しいと思います。

教授職というのはなかなか難しいものです。それは誰もどのようにラボを運営していけばよいのかという一番良い方法を教えてくれないからです。自分で模索して自分なりのラボ経営をしなくてはなりません。特に私は助手も助教授も経験してこなかったもので、初めはその方法論がわからずに、全くの自己流でラボ運営を行ってきました。ですから特に初めのころのスタッフや大学院生にはいろいろと迷惑をかけたと思っています。それでも10年も経つと、いろいろと自分なりのノウハウといったものがそれなりにできてきて、現在ではかなり確固たるスタイルを構築するに至りました。

そのスタイルは私自身が先入観なしに自己流で作ったものですので、他のラボの常識からはかけ離れている点が多々あります。しかしながら、その中心思想には私はかなりの自信を持っています。100の結果を求めるときは200の努力が必要であるということです。そして中山研という組織力を最大にすることが、構成員全員の幸せの総和を最大にすることにつながる、という信念の下にラボ経営をしてきました。ですから時には非情の決断を余儀なくされることもありましたが、最終的には10年間で国立大学の教授4名を輩出し、大学院卒業生も世界で活躍するようになり、人材育成という面でもかなり成果を挙げてきたと思っています。

研究の評価は業績である程度見て取れますが、教育の評価は10年、20年後でなくてはなかなかわからないものです。私の教育方針は、学生に釣った魚を与えてあげることではなく、魚の釣り方を教えようというものです。魚をもらった学生はラボを出たらそれまでですが、釣り方を教わった学生は一生それで食べていけます。中山研での教育は厳しいですが、中山研で生き抜いていければ、世界中どんなラボでもエース級としてやっていけることは私が保証します。今まで学生を送ったほとんどの一流ラボのボスが私に感謝のメールを送ってくるのは、決してお世辞だけではありません。

良きも悪しきも中山研という名前は、多くの日本の生命科学者が知るところとなりました。もちろん常に研究面で世界のトップを目指して日夜努力すべきことは言うまでもありませんが、同時に日本一の教育を受けられるラボとして、そして優れた人材を多数輩出するラボとして、一目置かれるようなブランドを作りたい、そう願っています。

私にとって10年という月日は初めの通過点に過ぎません。これからあと20年近くの激闘の日々が待っています。日本海軍の伝説的な知将である秋山真之は、ロシアバルチック艦隊との日本海海戦に際し「皇国ノ興廃此ノ一戦ニ在リ各員一層奮励努力セヨ」と号令をかけました。私も常にこの気持ちで今後もラボを率いていきますので、各員一層の奮励努力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、過去そして現在に中山研に在籍した全ての皆様に感謝と御礼を捧げたいと思います。優秀な指導者として活躍してくれたスタッフ各位、厳しいプレッシャーにもめげず立派な研究を行ってくれたポスドクや学生諸君、縁の下の力持ち的にラボを支えてくれた補助員の皆さん、そして常に私の仕事を支えてくれた秘書の方々に心より感謝致しますと共に、皆様の生涯の幸福をご祈念申し上げます。

平成18年12月5日午前5時 教授室にて

